5．多様な暮らしが選べ、快適に暮らせるまちに

私たちの公園をつくろう　～公園づくりワークショップ～
活気あふれる元気な地域をめざして　～吉和おさんぽギャラリー～
子どもの声でにぎわう玖島をめざして　～くじまの森　自由なマーケット～

私たちの公園をつくろう
～ 公園づくりワークショップ ～

■事業概要 info

地域の皆さんに愛される公園づくりをめざし、行政だけが整備内容を決めるのではなく、利用者の皆さんの思いや意見、アイデアを取り入れるために、ワークショップ※の手法を取り入れています。ワークショップでは、利活用、予算経済性、安全性、維持管理・運営などについて合意形成を図り、設計に反映します。

■事業の背景やきっかけ introduction

平成９年度の佐原田公園（宮内地区）の整備が、廿日市市における市民参加の施設づくりの最初の取組です。以降、地域の皆さんの暮らしに最も身近な街区公園や、防災機能を持つ公園など、これまで 14 カ所の公園についてワークショップで整備内容や維持管理の方法などを検討してきました。今年度は、廿日市駅北土地区画整理区域内に整備する城内第２公園について、設計前のワークショップを開催しています。

伊藤 利彦さん

佐方地区在住

計画が白紙の状態から、市民がどういうことを求めているかを聴き、反映されるのは良い取組だと思います。ただし参加する市民は素人なので、イメージを広げることができるよう他の公園の事例を示すなど行政側の準備も必要です。

行政は「作る」ことは得意ですが、「いかにうまく使い、管理するか」ということが下手だと思います。今後は、作った後の活用についても、知恵を出し力を注いでもらえることを期待しています。

池田 実希子さん

建設部 施設整備課

地域の皆さんと一緒に事業を進めていく機会が少ない中で、どうやったら皆さんの意見をうまく引き出せるか、「よいけれど現実には取り入れにくい意見」に対してどう対応すればよいかなどに悩みながら進めています。

地域の皆さんへは、ワークショップへの参加に対して感謝しています。

公園づくりだけでなく、他の場面でも市民と一緒にやることを広げていきたいです。

■インタビューを終えて・・・ review

施設に愛着を持ち、自分たちのものとして大切に利用してもらうために、市民と市が同じテーブルについて検討するワークショップの取組は、とても効果的だと思いました。

2012.9.8 取材

※ワークショップ：目的とするテーマについて、参加者が共通の体験をしながら、対等の立場で話し合い、何かを学びあったりしながら、全体としての考えをまとめる手法。

活気あふれる元気な地域をめざして
～ 吉和おさんぽギャラリー ～

■事業概要 info

“地域の元気のきっかけづくり”を目的として、出展者の自宅を開放して作品展示を行います。さらには自然豊かな吉和地域ならではの体験プログラムや、昔ながらの民家でほっと一息など「吉和地域の魅力をまるごと紹介する」イベントです。地図を見ながら地域内を自由に回ってもらうことで、吉和地域の魅力を直接感じてもらいます。

■事業の背景やきっかけ introduction

「吉和おさんぽギャラリー実行委員会」の一員でもある地域支援員が、各世帯を訪問し、いろんな方とお会いした中で、吉和地域にはものづくりを楽しむ方が多いということを知り、そんな地域の方たちの魅力を生かしたいと考え企画されました。

また、著しい人口減少が進むこの地域で「もっとたくさんの人に吉和地域に来ていただき、吉和地域のよさを知ってもらいたい！」との思いもこめられています。

佐藤 麻友さん

吉岡 真理さん

地域支援員
吉冨 有美さん

吉和おさんぽギャラリー実行委員会

この事業を通じて、お年寄りの顔や名前を知ることができ、地域の人とのつながりが増えました。

メンバーは若い女性が中心ですが、地域では発言力がちょっと弱い…。初めての取組なので、今やっていることが本当に吉和の人のためになっているか、と不安になります。そういうときに市が支援をしてくださるので、心強いです。これをきっかけに、内外に関わらずいろんな人がいろんなかたちで関わることができ、吉和を愛する人が増えたらと願っています。

研谷 浩樹さん

吉和支所 地域づくり推進グループ

最初に出展者向けの説明会を開催した際に、出展者の方々がとても積極的で、そこに地域パワーを感じました。実行委員会のみなさんも主体的に動いてくださっていて「これはいける！本気にならないと」と感じ、支援したいと思いました。

今回の事業の特徴は、市民の方が主体となって取り組まれているということです。

今後もこのような事業を取り入れてまちづくりを進めていき、地域のコミュニティも広がればと思います。

■インタビューを終えて・・・ review

市民と行政が自然にかかわり合い、お互いのよいところ、強みや得意なところを出し合い、それをひとつにすることが、いいまちづくりにつながってくるのだと思います。

2012.9.6 インターンシップ実習生取材

子どもの声でにぎわう玖島をめざして
～ くじまの森　自由なマーケット ～

■事業概要　info

平成２６年３月３０日、佐伯地域の玖島地区在住の若者を中心に開催された「くじまの森 自由なマーケット」。当日は、800 人近くの人が住民 1,044 人（平成 26 年４月１日現在）の玖島地区に集まり、若手作家が制作した手づくり雑貨や、食べ物、地元産品などを楽しみました。くじまの森をきっかけに、地区内外の交流が広がりつつあります。

■事業の背景やきっかけ　introduction

平成２４年３月の玖島保育園閉園、平成２６年度末での玖島小学校閉校など、少子化の進んでいる玖島地区。子育て世代の減少と地域の未来を危惧した在住の若者が「玖島に人を集めたい、知ってもらいたい」という思いから、仲間を募り、「くじまの森 自由なマーケット」を開催しました。今回のイベントを弾みに若い子育て世代の移住をめざし、多様な主体を巻き込みながら取組を進めています。

玖島地区で家具工房 Rags-to-riches を営む 淀川誠さん

くじまの森

実行委員会はなく、ラフな話し合いで企画を進めています。義務感はないです。このイベントを通じて地域支援員の早川さんと新たに出会い、地域と支所をつなぐパイプ役として、かかわってもらいました。佐伯地域では、大虫さくらまつり、浅原楽市楽座など、それぞれの地区で活性化に取り組んでいますが、ゆくゆくは地域全体でやってみたいです。今後、子どもたちの声が聞こえる玖島地区にしていくために、子育て世代の呼び込みだけでなく、移住後のバックアップにも取り組んでいきたいです。

玖島郵便局長 山崎誠司さん

地域支援員 早川幸江さん

佐伯支所　地域づくりグループ

支所は、物品の貸し出しや会場設営のほか、「子どもたちの居場所もつくりたい」というくじまの森スタッフの声をうけ、市民センターに「キッズルーム」を設けました。「支所にやってほしいこと」を具体的に相談してもらえたので、かかわりやすかったです。

若者世代の定住促進に向け、平成 26 年９月から新たに入った地域支援員とともに取り組んでいきます。

淀川さんのように仕事を持った移住者を呼び込んで、もっと暮らしやすく楽しいまちにしたいです。

久保田裕美さん

■インタビューを終えて・・・　review

中山間地域に若者、特に子育て世代を呼び込むために、彼らと同じ世代が地域づくりに取り組むことは、とても効果的です。支所も、くじまの森に寄り添いながら、足りないところを補う形でかかわっており、お互いに支え合う関係が構築されていると思いました。

2014. 8. 5 取材